

## 平成 23 年度 新入社員の意識と就職活動状況アンケート調査 報告書

対象：平成 23 年度新入社員研修会（百五経済研究所主催）の参加者  
（主に三重県・愛知県に本社を置く企業の新入社員）

（調査結果のまとめ）

## ◆就職活動状況・就職観に関する調査

## ●調査を実施した背景

弊社では、企業の採用活動や人材育成に活用いただくため、また、学生の就職活動に活用いただくため、毎年継続して開催している新入社員研修会参加者を対象に、①学生の就職活動状況や②若者の就職観について調査を行い、これらの年ごとの変化を把握している。

## ●主な調査結果

## ＜就職活動状況＞

・1人あたりの“平均訪問企業数”は、専門学校卒を除き、前年よりも増加している。大学卒は、3年連続増加している。

## ＜就職先を選んだ理由＞

・就職先を選んだ理由は、前年と同様、「仕事内容（53.9%）」、「自宅通勤できる（39.7%）」との回答割合が高い。

## ＜就職活動を振り返って＞

・就職活動に「満足している」は 53.8%、前年に比べて「満足していない」の割合が上昇している。

## ＜入社後について思うこと＞

・入社した企業に期待することは、「コミュニケーションのよい職場（58.1%）」、「温かい雰囲気  
の職場づくり（52.7%）」、「やりがいのある仕事（50.4%）」が5割を超える。  
・就職して不安なことは、「上司や同僚との人間関係（70.0%）」、「業務の知識や技術の習得  
（64.2%）」の回答割合が高い。「上司や同僚との人間関係」が2年連続上昇している。

## ＜入社後のスタイル＞

・今の企業で「定年まで働きたい（28.5%）」がトップ。3年連続でトップとなった。  
・仕事とプライベートのバランスは、「両方を適度にこなす（74.2%）」が多数派となっている。

## ＜人生で大切だと思うもの＞

・人生で大切なものは、「家庭（70.1%）」が最も高く、「仕事（48.4%）」、「友達づきあい（43.8%）」が続く。「出世（4.9%）」よりも「社会貢献（6.0%）」の回答割合が高い。

## ◆ご当地のマスコットキャラクターに対する意識調査

## ●調査を実施した背景

近年は、“ひこにゃん”や“せんとくん”といった地域の産品や偉人・文化などをモチーフとした“ご当地キャラ”や“ローカルヒーロー”が全国で増えている。これら“ご当地のマスコットキャラクター”に対する若者の認識や、自治体や地域の企業・団体が地域情報発信のためにキャラクターを活用することの効果把握するため、“ご当地のマスコットキャラクター”についての設問を設けた。

## ●主な調査結果

・“ご当地キャラ・ローカルヒーローの商品を買ったことがある”は全体の約2割（20.9%）で、男女別にみると、女性の方が高い（27.1%）。“ご当地キャラなどがきっかけで、地域の産品や文化などに知識が深まったこと、興味をもったことがあるか”についても全体の約2割が「ある」と回答し（23.1%）、女性の方が高い（31.5%）。

## 【お問い合わせ先】

株式会社 百五経済研究所

TEL 059-228-9105

担当：川北、森里、松田

FAX 059-228-9380

# I アンケート調査の概要

## 1. 調査対象

弊社主催の新入社員研修会に参加した平成 23 年度の新入社員  
※162 社（主に三重県・愛知県に本社を置く企業）の新入社員

## 2. 調査の期間

平成 23 年 4 月 2 日～4 月 7 日

## 3. 調査方法

「新入社員研修会」会場で調査票を配布・回収（無記名）  
※395 人分の回答を回収

## 4. 主な調査項目

### ◆就職活動状況・就職観に関する調査

1. 就職活動状況	3
1-1. 訪問企業数と内定した企業数	3
2. 企業を選んだ基準	6
2-1. 就職先に決定した理由	6
3. 就職活動を振り返って	9
3-1. 満足しているかどうか	9
3-2. 満足・不満足の原因	10
4. 入社後について思うこと	12
4-1. 企業に期待すること	12
4-2. 就職して不安なこと	14
5. 入社後のスタイル	15
5-1. 今の企業でいつまで働きたいか	15
5-2. 仕事とプライベートのバランス	17
6. 人生で大切だと思うもの	19

### ◆ご当地のマスコットキャラクターに対する意識調査

7. “ご当地のマスコットキャラクター”に対する意識	21
7-1. “ご当地キャラ・ローカルヒーロー”の商品を買ったことがあるか	21
7-2. “ご当地キャラ・ローカルヒーロー”がきっかけで、地域の産品や文化など についての知識が深まったこと、興味をもったことがあるか	21
7-3. 好きな“ご当地キャラ・ローカルヒーロー”について	22

本書での表記について

※図表中の n は設問ごとの有効回答数を表す。

※「23 度」は「平成 23 年度の新入社員を対象にした調査結果」を表し、「22 年度中の就職活動」の内容を  
尋ねた結果を集計している。同様に各年度は以下の通り。

「18 年度」…平成 17 年度中の就職活動

「19 年度」…平成 18 年度中の就職活動

「20 年度」…平成 19 年度中の就職活動

「21 年度」…平成 20 年度中の就職活動

「22 年度」…平成 21 年度中の就職活動

## 5. 有効回答の属性

### ①性別

	回答数（人）	構成比（%）
男性	206	52.2
女性	184	46.6
不明	5	1.3

### ②年齢

	回答数（人）	構成比（%）
19歳以下	115	29.1
20～21歳	72	18.2
22～24歳	164	41.5
25歳以上	40	10.1
不明	4	1.0

### ③最終学歴

	回答数（人）	構成比（%）
高校卒	130	32.9
短大卒	23	5.8
専門学校卒	62	15.7
大学卒	151	38.2
大学院卒	15	3.8
その他	3	0.8
不明	11	2.8

※「その他」は回答数が少ないため、分析は省略している。

### ④就職先企業の業種

	回答数（人）	構成比（%）
製造業	114	28.9
建設業	20	5.1
卸・小売業	61	15.4
運輸業	3	0.8
飲食・宿泊業	12	3.0
サービス業	118	29.9
公務員	1	0.3
その他	49	12.4
不明	17	4.3

## Ⅱ アンケート調査の分析

### ◆就職活動状況・就職観に関する調査

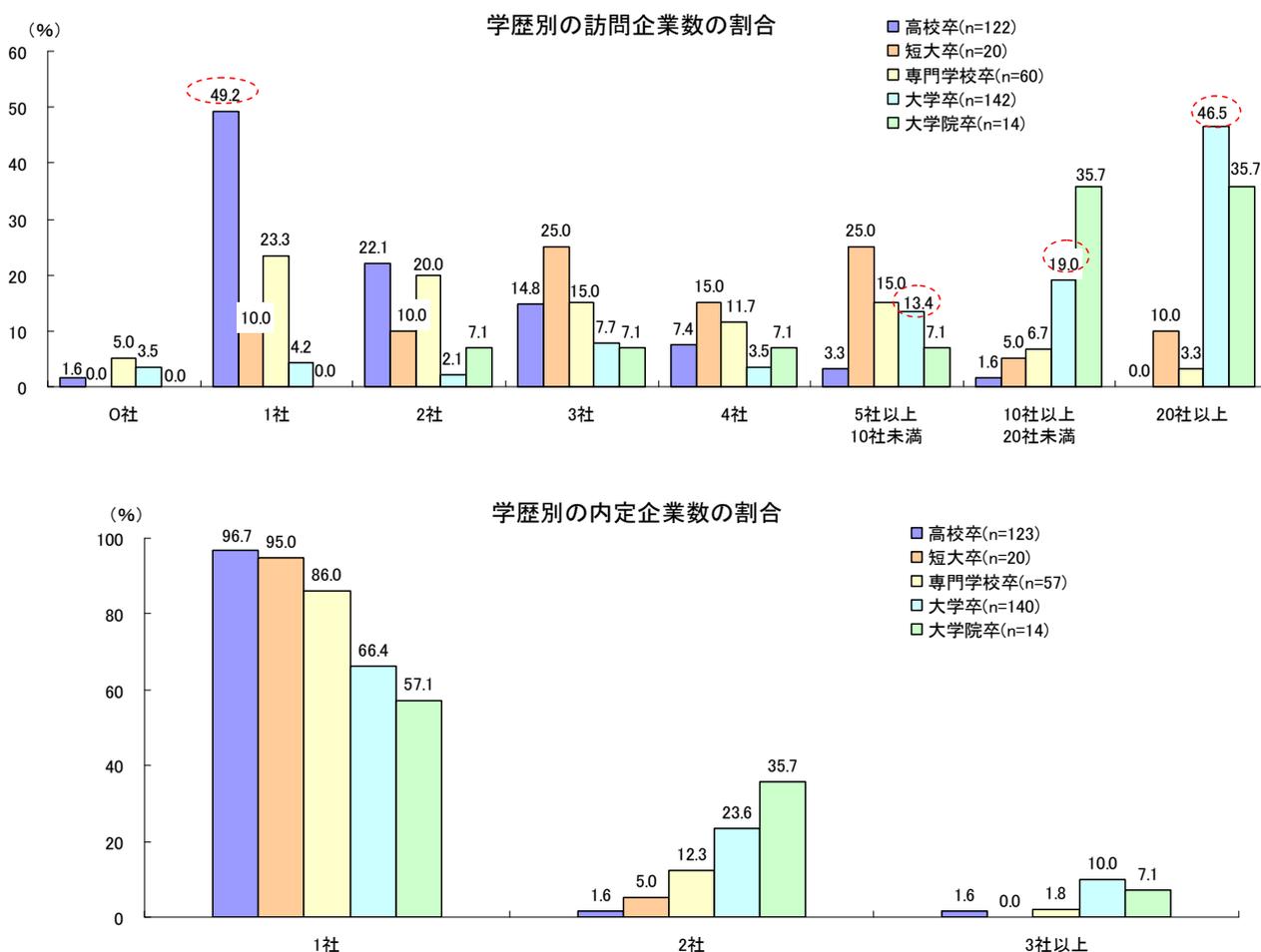
#### 1. 就職活動状況

##### 1-1. 訪問企業数と内定した企業数

就職活動で“訪問した企業の数（訪問企業数）”と“内定した企業の数（内定企業数）”を尋ねた。

訪問した企業数は、高校卒は約半数が「1社」である（49.2%）。大学卒では、「20社以上」が46.5%、「10社以上20社未満」が19.0%、「5社以上10社未満」が13.4%となっており、5社以上訪問した学生が約8割を占める（78.9%）。

内定した企業数は、どの学歴でも「1社」が最も多い。



訪問した企業の数と、内定した企業数を平均し、学歴別に1人あたりの“平均訪問企業数”、“平均内定企業数”を算出した。

平成22年度調査と比較すると、専門学校卒以外は、訪問企業数が増加しており、特に、大学卒は「4.7社」増加している。大学卒は3年連続増加し、20年度の2倍超となっている。

内定企業数は、昨年度と同水準にあり、大学卒・大学院卒では訪問企業数が大幅に増加しているが、内定企業数には大きな変化はない。

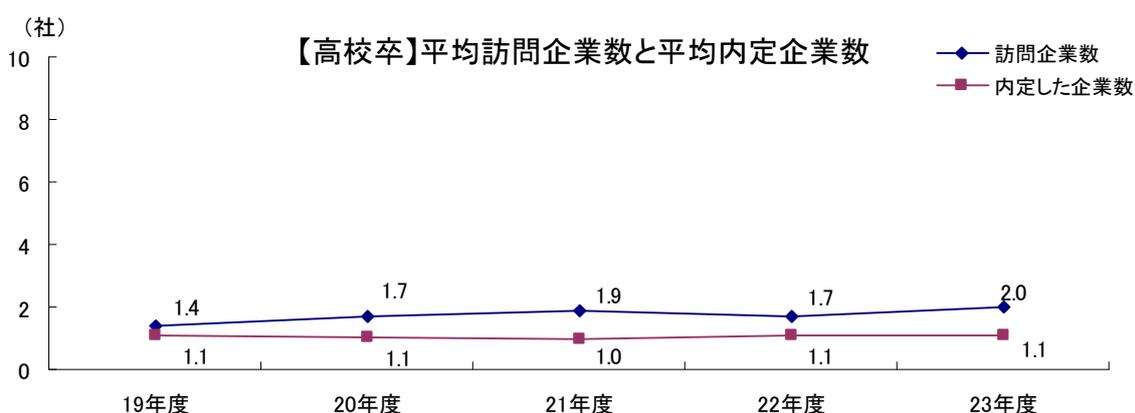
### 【学歴別の平均訪問企業数】

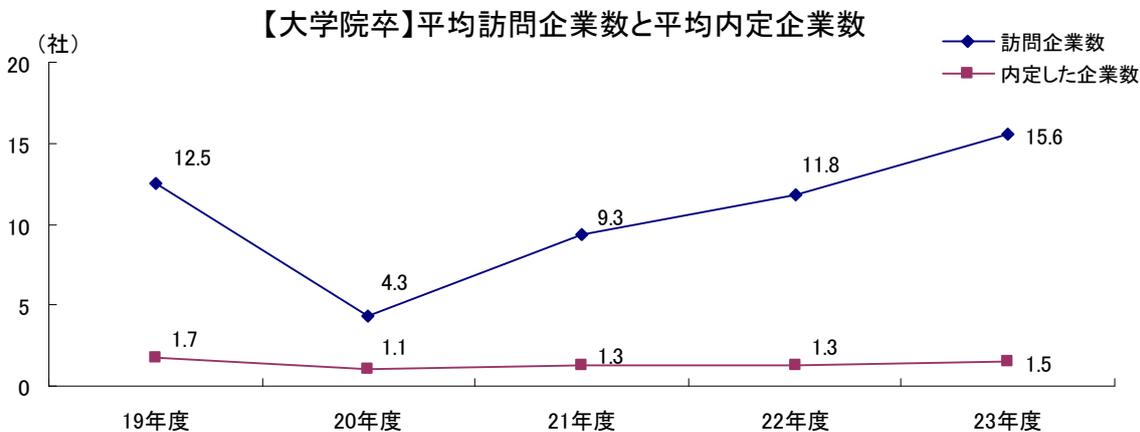
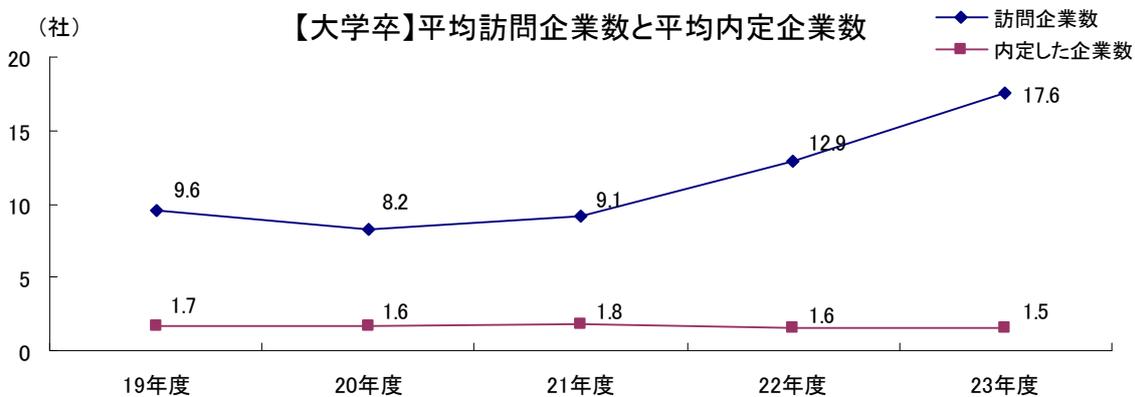
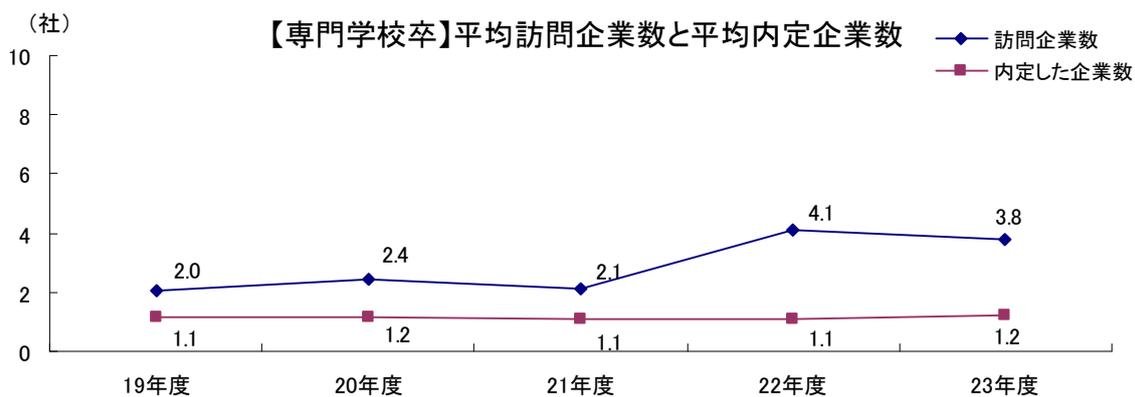
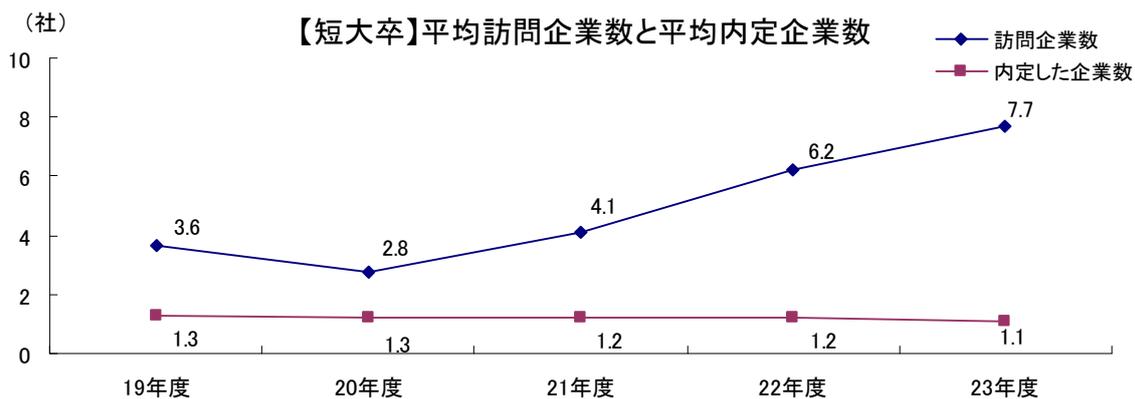
	平均訪問企業数 (社)	平成22年度調査との差 (社)
高校卒 (n=122)	2.0	+0.3
短大卒 (n=20)	7.7	+0.9
専門学校卒 (n=59)	3.8	△0.3
大学卒 (n=142)	17.6	+4.7
大学院卒 (n=17)	15.6	+3.9

### 【学歴別の平均内定企業数】

	平均内定企業数 (社)	平成22年度調査との差 (社)
高校卒 (n=123)	1.1	0.0
短大卒 (n=20)	1.1	△0.1
専門学校卒 (n=57)	1.2	+0.1
大学卒 (n=140)	1.5	△0.1
大学院卒 (n=17)	1.5	+0.2

### 【学歴別の平均訪問企業数と平均内定企業数の推移】

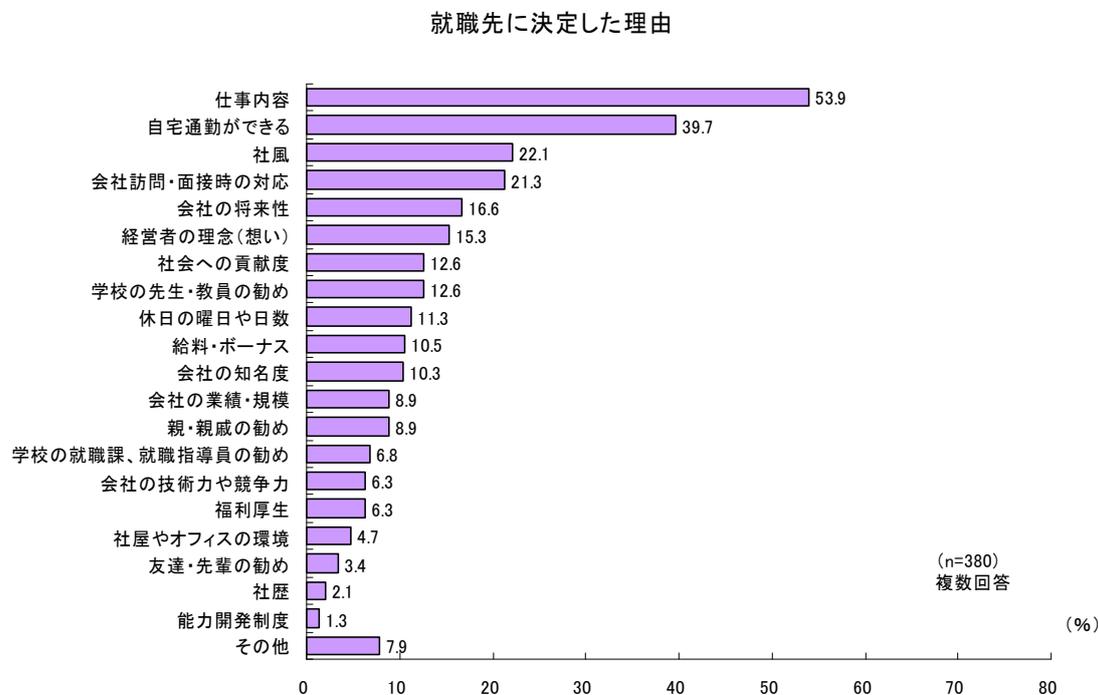




## 2. 企業を選んだ基準

### 2-1. 就職先に決定した理由（複数回答）

“就職先に決定した理由”については、「仕事内容」が53.9%と最も高く、次いで「自宅通勤できる（39.7%）」、「社風（22.1%）」が続く。



男女別でみると、男性の方が「会社の将来性（22.3%）」「会社の知名度（13.2%）」等の回答割合が高く、女性の方が「自宅通勤ができる（47.8%）」、「会社訪問・面接時の対応（25.6%）」「経営者の理念（想い）（18.3%）」等が高い。

#### 【「就職先に決定した理由」 男女別回答割合】 (%)

		会社の知名度	会社の将来性	会社の業績・規模	会社の技術力や競争力	社歴	仕事内容	給料・ボーナス
男女別全体 (n=377)		10.1	16.7	9.0	6.4	2.1	53.8	10.6
男女別	男性 (n=197)	13.2	22.3	11.7	8.6	3.0	54.8	11.7
	女性 (n=180)	6.7	10.6	6.1	3.9	1.1	52.8	9.4
		経営者の理念(想い)	社会への貢献度	社風	能力開発制度	自宅通勤ができる	休日の曜日や日数	学校の先生・教員の勧め
男女別全体 (n=377)		14.6	12.7	21.8	1.3	39.8	11.4	12.7
男女別	男性 (n=197)	11.2	10.2	21.8	2.0	32.5	10.7	14.2
	女性 (n=180)	18.3	15.6	21.7	0.6	47.8	12.2	11.1
		学校の就職課、就職指導員の勧め	親・親戚の勧め	友達・先輩の勧め	社屋やオフィスの環境	会社訪問・面接時の対応	福利厚生	その他
男女別全体 (n=377)		6.9	9.0	3.4	4.8	21.5	6.4	7.7
男女別	男性 (n=197)	5.6	7.6	4.1	5.6	17.8	4.6	10.2
	女性 (n=180)	8.3	10.6	2.8	3.9	25.6	8.3	5.0

学歴別でみると、大学卒は「社風（30.6%）」「会社訪問・面接時の対応（29.3%）」「経営者の理念（想い）（21.8%）」「社会への貢献度（21.8%）」等の回答割合が他の学歴より高い。

短大卒は「自宅通勤ができる（52.4%）」「学校の就職課、就職指導員の勧め（23.8%）」等の回答割合が他の学歴より高い。

専門学校卒は、「会社の知名度（23.0%）」「学校の先生・教員の勧め（21.3%）」「給与・ボーナス（18.0%）」等の回答割合が他の学歴より高い。

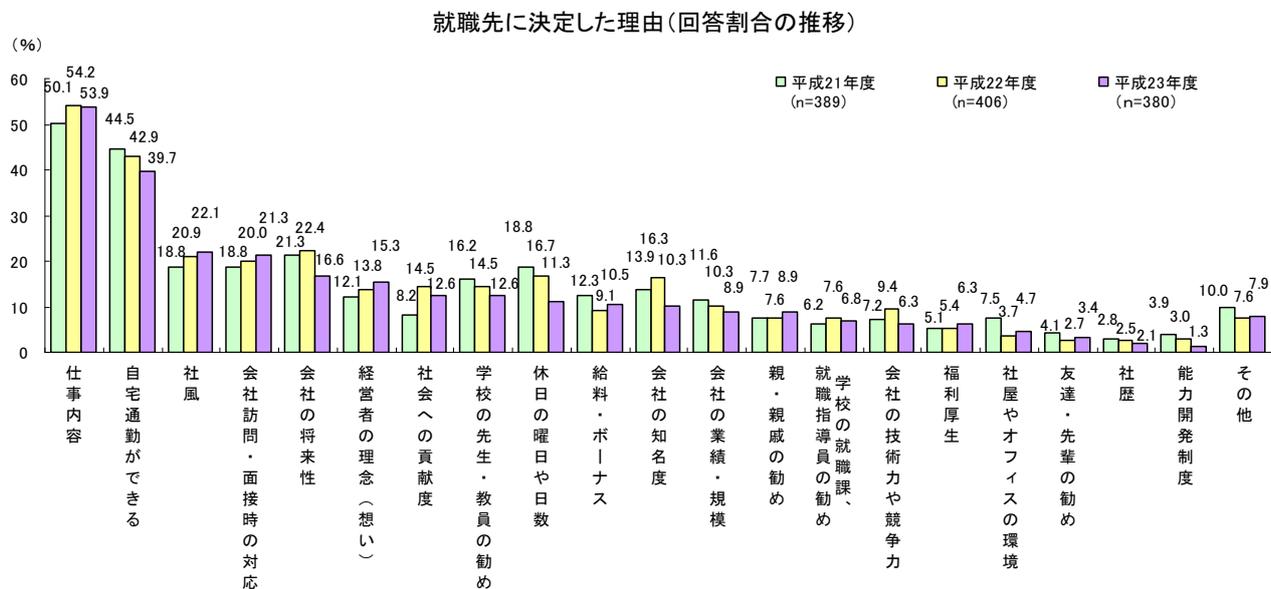
【「就職先に決定した理由」 学歴別回答割合】

(%)

		会社の知名度	会社の将来性	会社の業績・規模	会社の技術力や競争力	社歴	仕事内容	給料・ボーナス
学歴別全体(n=370)		10.0	16.8	8.9	6.5	2.2	54.6	10.8
学歴別	高校卒(n=124)	7.3	8.1	6.5	1.6	0.8	49.2	13.7
	短大卒(n=21)	4.8	9.5	14.3	9.5	4.8	52.4	9.5
	専門学校卒(n=61)	23.0	23.0	14.8	8.2	4.9	54.1	18.0
	大学卒(n=147)	8.8	20.4	8.2	8.2	1.4	57.1	6.8
	大学院卒(n=14)	0.0	28.6	7.1	21.4	7.1	71.4	0.0
		経営者の理念（想い）	社会への貢献度	社風	能力開発制度	自宅通勤ができる	休日の曜日や日数	学校の先生・教員の勧め
学歴別全体(n=370)		15.4	12.7	22.2	1.4	39.7	11.1	12.4
学歴別	高校卒(n=124)	12.1	4.8	16.9	0.0	37.1	12.1	17.7
	短大卒(n=21)	4.8	4.8	4.8	0.0	52.4	9.5	19.0
	専門学校卒(n=61)	9.8	8.2	19.7	3.3	24.6	8.2	21.3
	大学卒(n=147)	21.8	21.8	30.6	1.4	48.3	12.2	2.7
	大学院卒(n=14)	21.4	21.4	14.3	7.1	21.4	7.1	14.3
		学校の就職課、就職指導員の勧め	親・親戚の勧め	友達・先輩の勧め	社屋やオフィスの環境	会社訪問・面接時の対応	福利厚生	その他
学歴別全体(n=370)		7.0	8.9	3.2	4.9	20.8	6.2	7.8
学歴別	高校卒(n=124)	4.0	12.1	2.4	4.8	13.7	2.4	8.1
	短大卒(n=21)	23.8	14.3	0.0	0.0	19.0	14.3	4.8
	専門学校卒(n=61)	11.5	6.6	6.6	6.6	16.4	6.6	18.0
	大学卒(n=147)	5.4	7.5	2.7	5.4	29.3	8.8	4.1
	大学院卒(n=14)	0.0	0.0	7.1	0.0	21.4	0.0	7.1

22年度と比較すると、「社風」(前年比+1.2ポイント)、「会社訪問・面接時の対応」(同+1.3ポイント)、「経営者の理念(想い)」(同+1.5ポイント)の回答割合が上昇し、これらは過去3年間で上昇傾向にある。

一方で、「自宅通勤ができる」(同△3.2ポイント)、「会社の将来性」(同△5.8ポイント)、「休日の曜日や日数」(同△5.4ポイント)、「会社の知名度」(同△6.0ポイント)の回答割合は低下している。中でも、「休日の曜日や日数」は、過去3年間で大きく低下している。

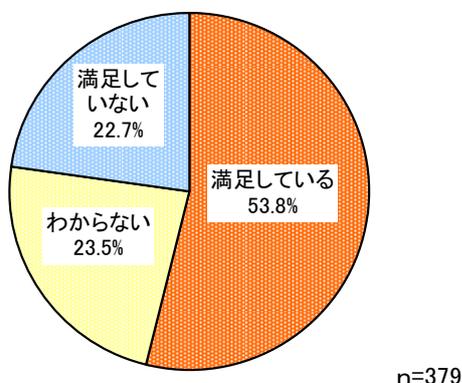


### 3. 就職活動を振り返って

#### 3-1. 満足しているかどうか

“就職活動に満足をしているか”については、「満足している（53.8%）」が5割以上を占める。

就職活動に満足しているか



男女別では、女性の方が「満足している（59.9%）」の回答割合が高い。

【「就職活動の満足度」 男女別回答割合】 (%)

		満足している	満足していない	わからない
男女別全体 (n=375)		54.4	22.7	22.9
男女別	男性 (n=203)	49.8	25.1	25.1
	女性 (n=172)	59.9	19.8	20.3

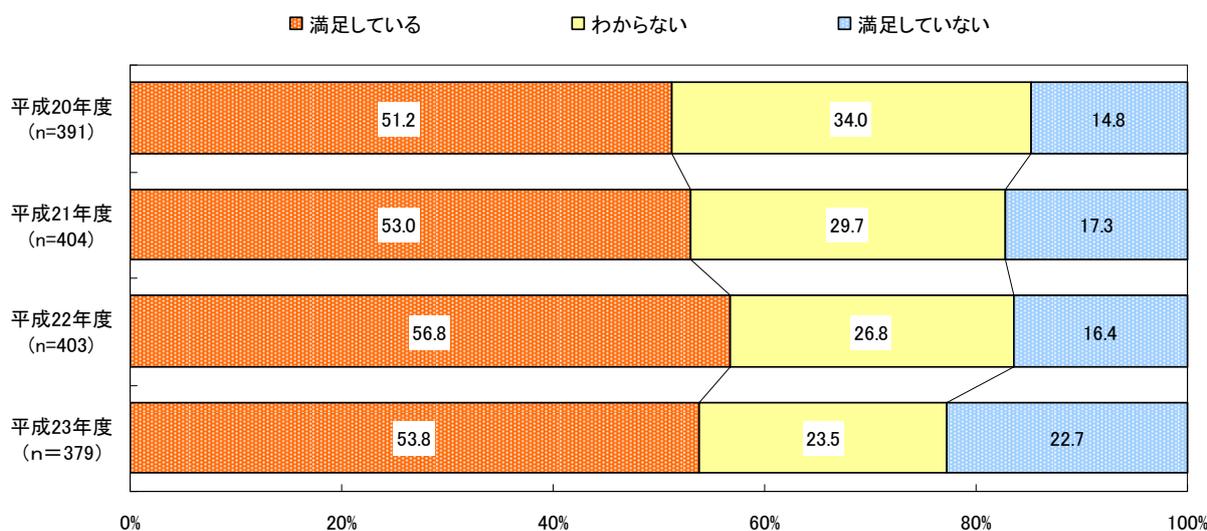
学歴別でみると、「満足していない」の回答割合が、短大卒は33.3%、大学卒では33.8%と他の学歴と比べて高い。

【「就職活動の満足度」 学歴別回答割合】 (%)

		満足している	満足していない	わからない
学歴別全体 (n=368)		54.3	22.3	23.4
学歴別	高校卒 (n=124)	62.1	12.1	25.8
	短大卒 (n=21)	38.1	33.3	28.6
	専門学校卒 (n=60)	60.0	13.3	26.7
	大学卒 (n=145)	46.9	33.8	19.3
	大学院卒 (n=15)	66.7	13.3	20.0

22年度調査と比較すると、「満足している」(前年比△3.0ポイント)の回答割合が低下している。一方、「満足していない」(同+6.3ポイント)が上昇している。

### 就職活動に満足しているか



### 3-2. 満足・不満足の原因(自由記入回答)

※自由記入の回答から特徴あるものを、①満足している、②満足していない、③わからないの別に抜粋した。

#### ①「満足」の理由

##### 【具体的な回答内容】

- ・自分の行きたい会社に行けたので満足している(高校卒、短大卒、専門学校卒、大学卒)
- ・将来性がありそうな会社に入社できたから(大学卒)
- ・この不景気に就職できたことをありがたく思うから(短大卒、専門学校卒)
- ・1社目で内定が取れたから(短大卒、専門学校卒)
- ・早く内定を頂けたから(大学卒)
- ・希望の業種につけたから(高校卒、専門学校卒、大学卒)
- ・自宅から近く、自分の望んでいた業種につけたからです(高校卒)
- ・「一緒に働きたい」と思える会社から内定を頂けたから(大学卒)
- ・全力を出して就職活動ができたから(高校卒)
- ・楽しんで意欲的に取り組むことができたから(大学卒)
- ・精一杯やりきったという思いです(専門学校卒、大学卒)
- ・辛い時期もあったが、最終的に自分の能力を發揮できる会社から内定をもらえたから(大学卒)
- ・今の会社に、力を出し切った状態で内定を頂けたから。早い段階で内定を頂けたから(大学卒)
- ・挑戦してみたい職業に絞り就職活動できたから(高校卒)
- ・多くの会社を見て回れたため(大学卒)
- ・しっかりと色々な会社を見極めることができた(高校卒)
- ・色々な会社の特徴が見られ、自分にあった会社が見つけたから(専門学校卒)
- ・就職先でやりたいことを見つけれられたから(専門学校卒)
- ・自分のやりたい職業を見つけることができたから(高校卒)
- ・自分の弱いところを改めて考えることができたから(専門学校卒)
- ・就職活動を通して自分が成長できたと思いました(大学卒)
- ・多くの人と出会い、会社をひとつ受けるたびに自分の中で少しずつ良い方向に成長できたと思うから(大学卒)

- ・様々な企業に足を運び、今まで知らなかった知識を学ぶことができたから（大学卒）
- ・学生生活では学べないことを学びました（高校卒）
- ・たくさん面接を繰り返すことで自分自身を見つめ直すことができたから（大学卒）
- ・自分が何をしたいかなど、自己分析がしっかりできたから（大学卒）
- ・自分の将来について考えられたから（大学卒）
- ・人間関係がとても良好で雰囲気の良い職場だから（高校卒、大学卒）
- ・職場の方々が温かい（高校卒）
- ・就職先は皆さん良い人で、仕事しやすい環境だから（高校卒）
- ・学校できちんと教えてくれたから（専門学校卒）
- ・三重県内で就職できたから（大学卒）

## ②「不満足」の理由

### 【具体的な回答内容】

- ・第一志望の会社に入社できなかった（大学卒）
- ・本当にやりたかったこととは違うから（短大卒）
- ・自分を出し切れていない気がした（短大卒）
- ・自己分析が中途半端のままスタートしたため、自分を会社に自信を持ってPRすることができずに、活動が長期化したため（大学卒）
- ・きちんと自分のしたいことを探してから決めたらよかった（高校卒）
- ・履歴書の書き方や自己PRの内容など、もっと改善できたのではないかと（専門学校卒）
- ・会社のことをもっと調べるべきだった（専門学校卒）
- ・一般常識の試験対策が不十分でした。自分のやりたいことは何かを時間をかけて考えることが不十分でした。（大学卒）
- ・幅広い業種を見ておきたかった（大学卒）
- ・一社目の内定で決めてしまい、自分の可能性を広げることができなかったから（大大卒）
- ・もっと多くの企業を訪問したほうが良かったのではないかと（大学卒）
- ・訪問した会社がほかの人より数少なく、活動内容が薄かったから（大学卒）
- ・もう少し多くの企業や業界を見ておけばよかった。社会の人ともう少し接して、マナーなどを学んでおけば良かった（大学卒）
- ・適当に選択したから（高校卒）
- ・開始時期が遅かったため（大学卒）

## ③「わからない」の理由

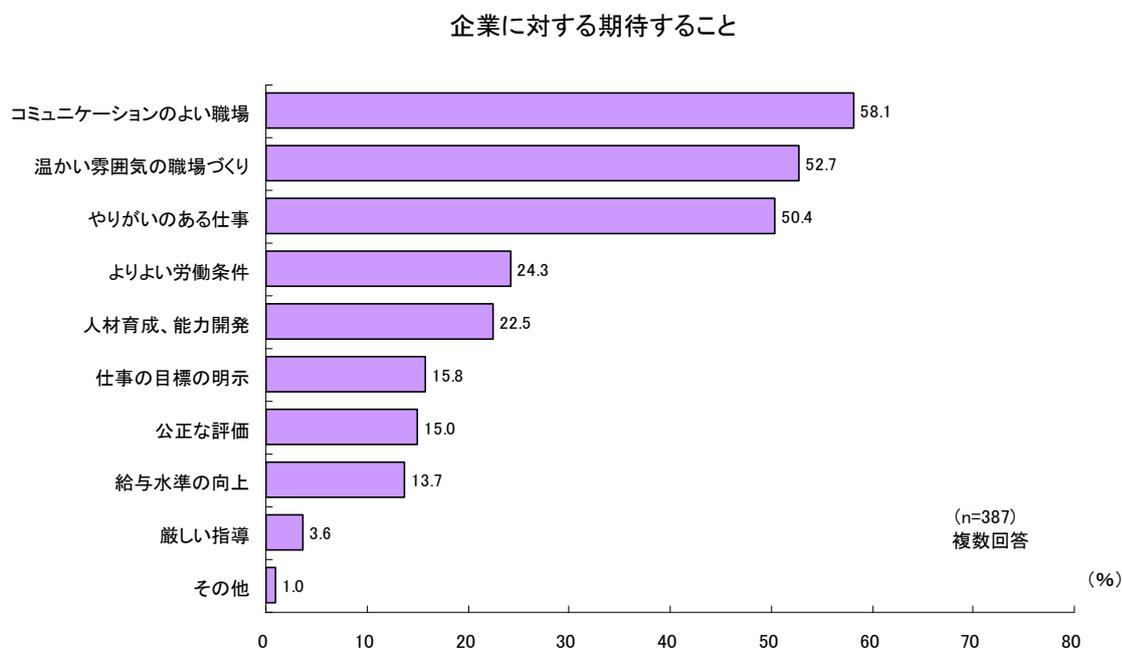
### 【具体的な回答内容】

- ・まだ実際に部署に配属されておらず、実情がわからないため（高校卒、短大卒、大学卒）
- ・たいした活動もせず入社させてもらったので、就職活動自体があまりよくわからない（高校卒、短大卒、専門学校卒、大学卒）
- ・もっといろいろな会社を訪問すれば違った道があったかもしれない（大学卒）
- ・他の会社を色々調べて入社したわけではないから（高校卒）
- ・就活の時期が遅く、訪問企業数が少ないのでなんともいえない（専門学校卒、大学卒）
- ・親が決めたから（高校卒）
- ・先生の勧めで就職したので、本当に自分が働きたかったのか、向いているのかわからない（専門学校卒）

## 4. 入社後について思うこと

### 4-1. 企業に期待すること（複数回答、3つまで）

“入社した企業にどのようなことを期待するか”については、「コミュニケーションのよい職場」が58.1%と最も高く、次いで「温かい雰囲気職場づくり」が52.7%、「やりがいのある仕事」が50.4%と続いており、いずれも5割超となっている。



男女別でみると、男性の方が「仕事の目標の明示（18.5%）」「公正な評価（18.0%）」「給与水準の向上（16.5%）」等の回答割合が高く、女性の方が「コミュニケーションのよい職場（63.2%）」「温かい雰囲気職場づくり（64.8%）」、等が高い。

#### 【「企業に期待すること」 男女別回答割合】 (%)

		仕事の目標の明示	公正な評価	厳しい指導	コミュニケーションのよい職場	温かい雰囲気職場づくり	人材育成、能力開発	給与水準の向上
男女別全体 (n=382)		16.0	14.7	3.7	57.9	52.9	22.8	13.9
男女別	男性 (n=200)	18.5	18.0	3.5	53.0	42.0	25.0	16.5
	女性 (n=182)	13.2	11.0	3.8	63.2	64.8	20.3	11.0
		よりよい労働条件	やりがいのある仕事	その他				
男女別全体 (n=382)		24.1	50.5	0.8				
男女別	男性 (n=200)	24.5	47.0	1.0				
	女性 (n=182)	23.6	54.4	0.5				

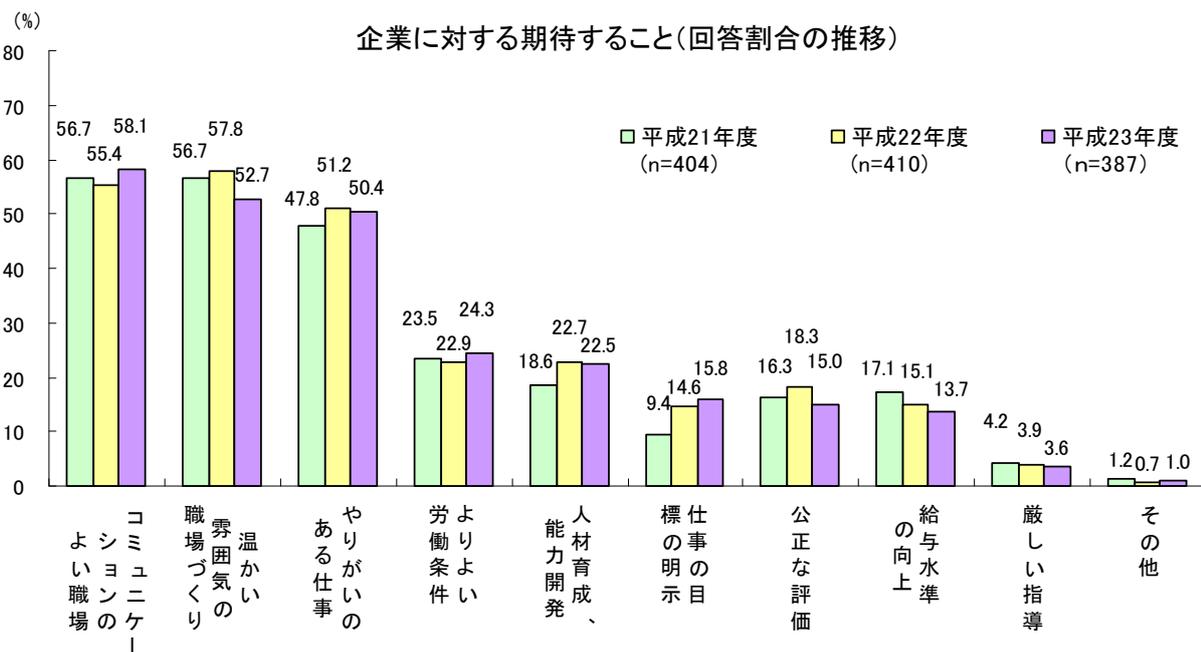
学歴別でみると、高校卒は「温かい雰囲気職場づくり (60.5%)」の回答割合が高い。短大卒は、「コミュニケーションのよい職場 (72.7%)」「よりよい労働条件 (36.4%)」の回答割合が高い。

【「企業に期待すること」 学歴別回答割合】

(%)

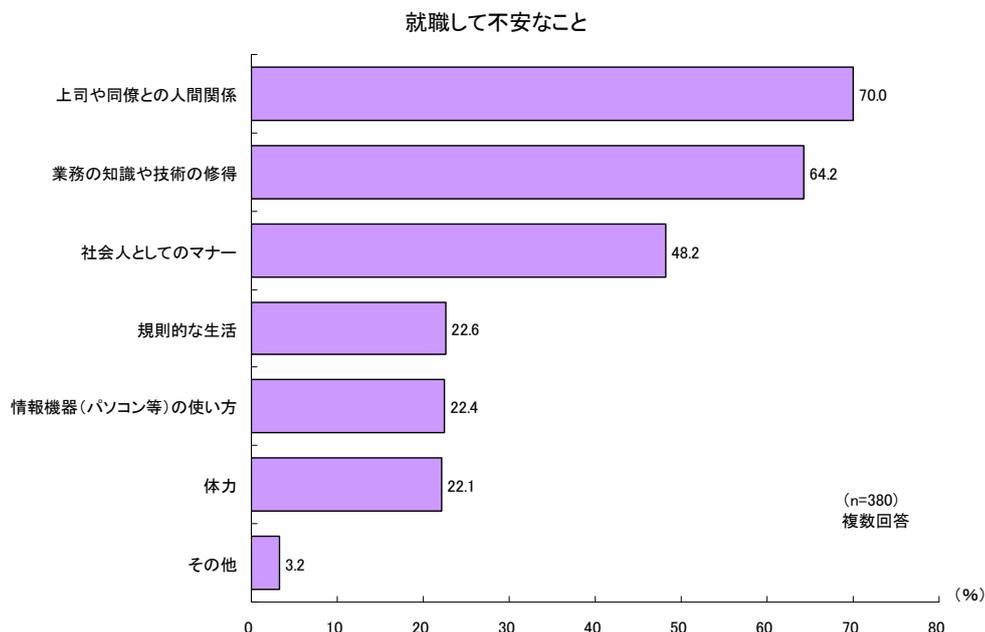
		仕事の目標の明示	公正な評価	厳しい指導	コミュニケーションのよい職場	温かい雰囲気職場づくり	人材育成、能力開発	給与水準の向上
学歴別全体 (n=376)		16.0	14.6	3.7	58.2	52.7	23.1	13.3
学歴別	高校卒 (n=124)	12.9	11.3	2.4	61.3	60.5	11.3	12.1
	短大卒 (n=22)	0.0	9.1	4.5	72.7	54.5	13.6	13.6
	専門学校卒 (n=62)	16.1	19.4	4.8	45.2	48.4	30.6	22.6
	大学卒 (n=150)	18.7	17.3	4.0	59.3	50.7	30.0	11.3
	大学院卒 (n=15)	33.3	6.7	6.7	53.3	26.7	33.3	6.7
		よりよい労働条件	やりがいのある仕事	その他				
学歴別全体 (n=376)		24.2	50.3	0.8				
学歴別	高校卒 (n=124)	21.8	49.2	0.8				
	短大卒 (n=22)	36.4	54.5	0.0				
	専門学校卒 (n=62)	21.0	51.6	0.0				
	大学卒 (n=150)	25.3	49.3	1.3				
	大学院卒 (n=15)	33.3	53.3	0.0				

過去3年間を比較してみると、「仕事の目標の明示」は上昇傾向で、「給与水準の向上」は低下傾向にある。



## 4-2. 就職して不安なこと（複数回答）

“就職して不安に感じていること”については、「上司や同僚との人間関係」が70.0%と最も高く、次いで「業務の知識や技術の修得」が64.2%と続いており、いずれも6割超となっている。



男女別にみると、女性の方が「情報機器（パソコン等）の使い方（26.8%）」の回答割合が高い。

### 【「就職して不安なこと」 男女別回答割合】 (%)

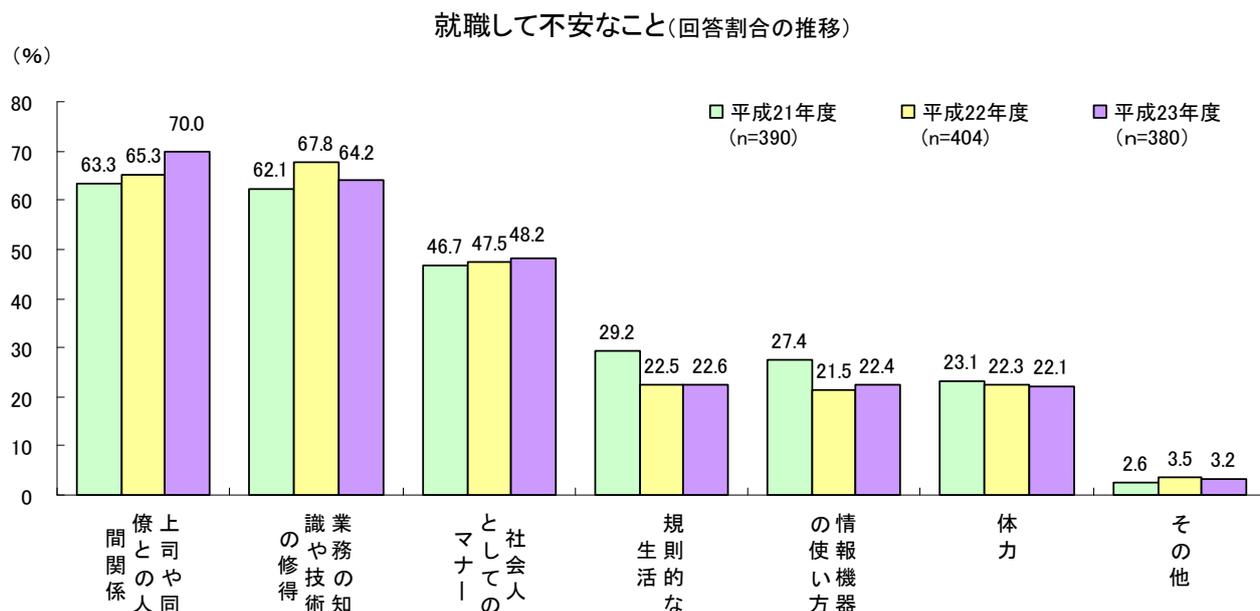
		上司や同僚との人間関係	業務の知識や技術の修得	情報機器（パソコン等）の使い方	社会人としてのマナー	規則的な生活	体力	その他
男女別全体 (n=375)		70.1	64.5	22.4	48.3	22.4	21.9	3.2
男女別	男性 (n=196)	73.0	61.7	18.4	45.9	25.5	21.9	4.6
	女性 (n=179)	67.0	67.6	26.8	50.8	19.0	21.8	1.7

学歴別にみると、大学卒が「業務の知識や技術の修得（70.5%）」が、高校卒が「体力（29.8%）」が他に比べて高い。また、大学院卒、短大卒は「社会人としてのマナー」がそれぞれ、60.0%、59.1%と他の学歴よりも高い。

### 【「就職して不安なこと」 学歴別回答割合】 (%)

		上司や同僚との人間関係	業務の知識や技術の修得	情報機器（パソコン等）の使い方	社会人としてのマナー	規則的な生活	体力	その他
学歴別全体 (n=369)		69.4	64.2	22.2	48.8	22.5	22.8	3.3
学歴別	高校卒 (n=124)	73.4	58.1	13.7	48.4	23.4	29.8	3.2
	短大卒 (n=22)	59.1	68.2	27.3	59.1	22.7	27.3	0.0
	専門学校卒 (n=59)	59.3	57.6	27.1	37.3	15.3	20.3	5.1
	大学卒 (n=146)	72.6	70.5	27.4	50.7	24.7	17.8	3.4
	大学院卒 (n=15)	60.0	66.7	13.3	60.0	26.7	20.0	0.0

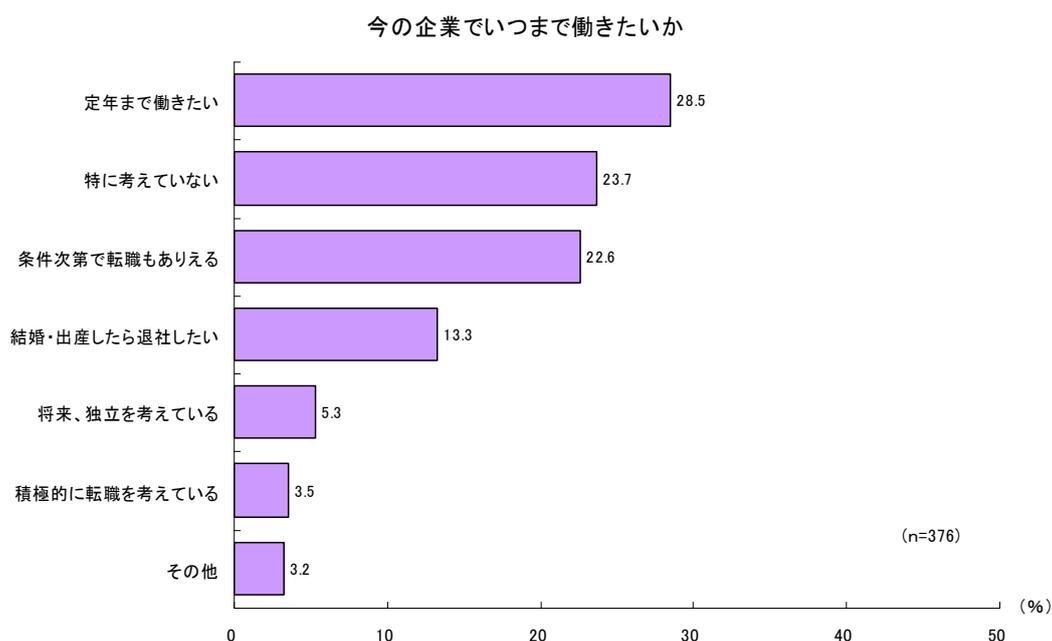
過去3年間を比較してみると、「上司や同僚との人間関係」の回答割合が上昇傾向で、今回の調査でトップとなった。



## 5. 入社後のスタイル

### 5-1. 今の企業でいつまで働きたいか

“今の企業でいつまで働きたいか”については、「定年まで働きたい」が、28.5%と最も高く、次いで「特に考えていない (23.7%)」、「条件次第で転職もありえる (22.6%)」が続く。



男女別でみると、男性の方が「定年まで働きたい（40.3%）」の回答割合が高く、女性より20ポイント以上高い。また、「条件次第で転職もありえる（29.1%）」の回答割合も女性より高い。また、女性の方が「特に考えていない（29.5%）」の回答割合が高い。

**【「今の企業でいつまで働きたいか」 男女別回答割合】** (%)

		定年まで働きたい	条件次第で転職もありえる	積極的に転職を考えている	将来、独立を考えている	結婚・出産したら退社したい	特に考えていない	その他
男女別全体 (n=372)		28.8	22.3	3.2	5.4	13.2	23.9	3.2
男女別	男性 (n=196)	40.3	29.1	4.1	6.6	0.0	18.9	1.0
	女性 (n=176)	15.9	14.8	2.3	4.0	27.8	29.5	5.7

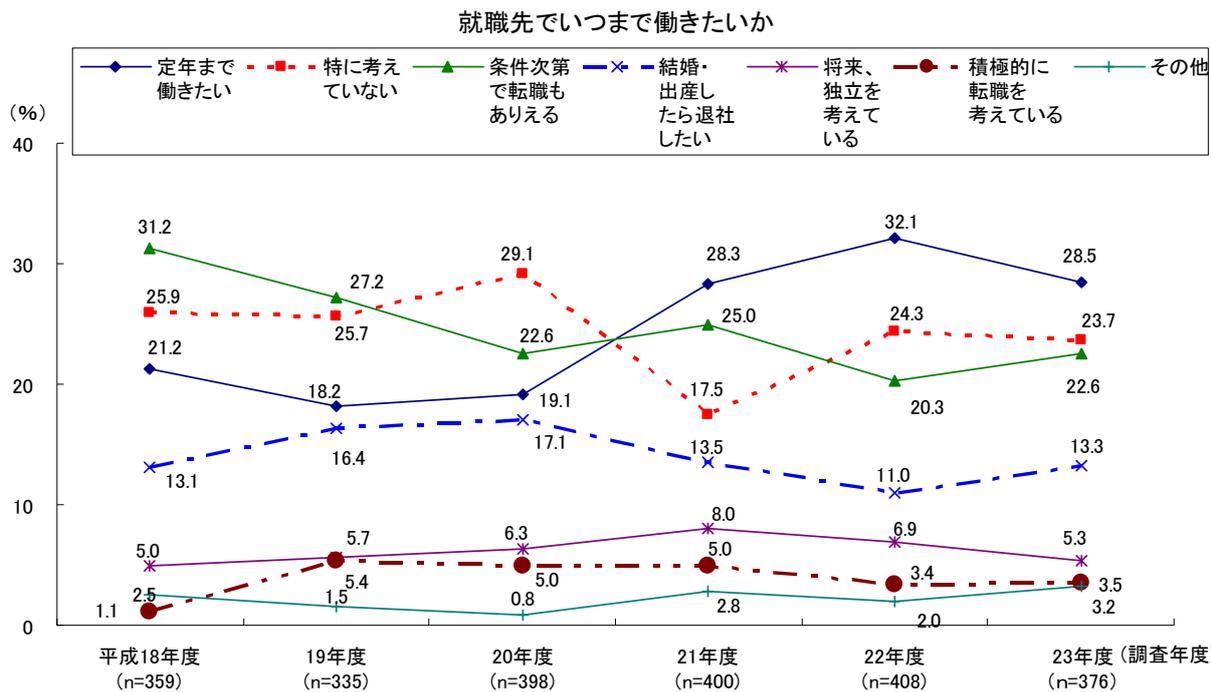
学歴別でみると、「定年まで働きたい」の回答割合が、高校卒では33.1%、大学卒では30.8%、大学院卒では33.3%と他の学歴よりも高い。また、「条件次第で転職もありえる」の回答割合は、大学卒が26.7%、大学院卒が33.3%と、他の学歴よりも高い。

専門学校卒は、他の学歴より「将来独立を考えている（15.0%）」の回答割合が高い。また、短大卒は、他の学歴より「結婚・出産したら退社したい（31.8%）」の回答割合が高い。

**【「今の企業でいつまで働きたいか」 学歴別回答割合】** (%)

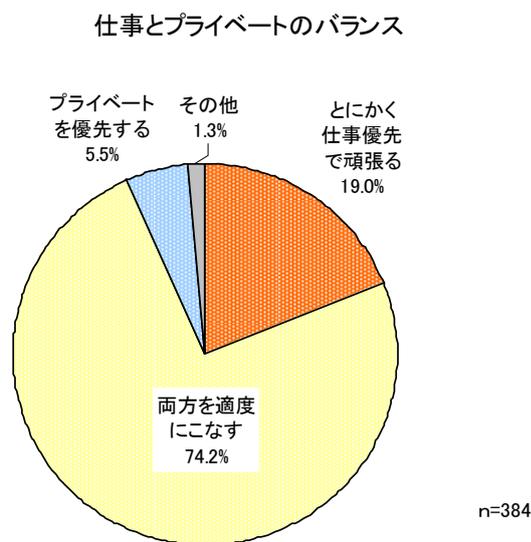
		定年まで働きたい	条件次第で転職もありえる	積極的に転職を考えている	将来、独立を考えている	結婚・出産したら退社したい	特に考えていない	その他
学歴別全体 (n=367)		28.9	22.3	3.5	4.9	13.1	24.0	3.3
学歴別	高校卒 (n=121)	33.1	16.5	5.0	0.8	16.5	25.6	2.5
	短大卒 (n=22)	18.2	18.2	0.0	9.1	31.8	22.7	0.0
	専門学校卒 (n=60)	18.3	23.3	5.0	15.0	10.0	25.0	3.3
	大学卒 (n=146)	30.8	26.7	2.1	4.1	9.6	22.6	4.1
	大学院卒 (n=15)	33.3	33.3	6.7	0.0	0.0	20.0	6.7

22年度調査と比較して、順位に変化はみられないが、「定年まで働きたい」の回答割合が低下している（前年比△3.6%）。



## 5-2. 仕事とプライベートのバランス

“仕事とプライベートのバランスをどのように考えているか”については、「両方を適度にこなす（74.2%）」が約4分の3を占める。



男女別では、大きな違いはみられなかった。

学歴別では、高校卒は「とにかく仕事優先で頑張る」の回答割合が 23.0%と、他の学歴よりも高い。

【「仕事とプライベートのバランス」 男女別回答割合】

(%)

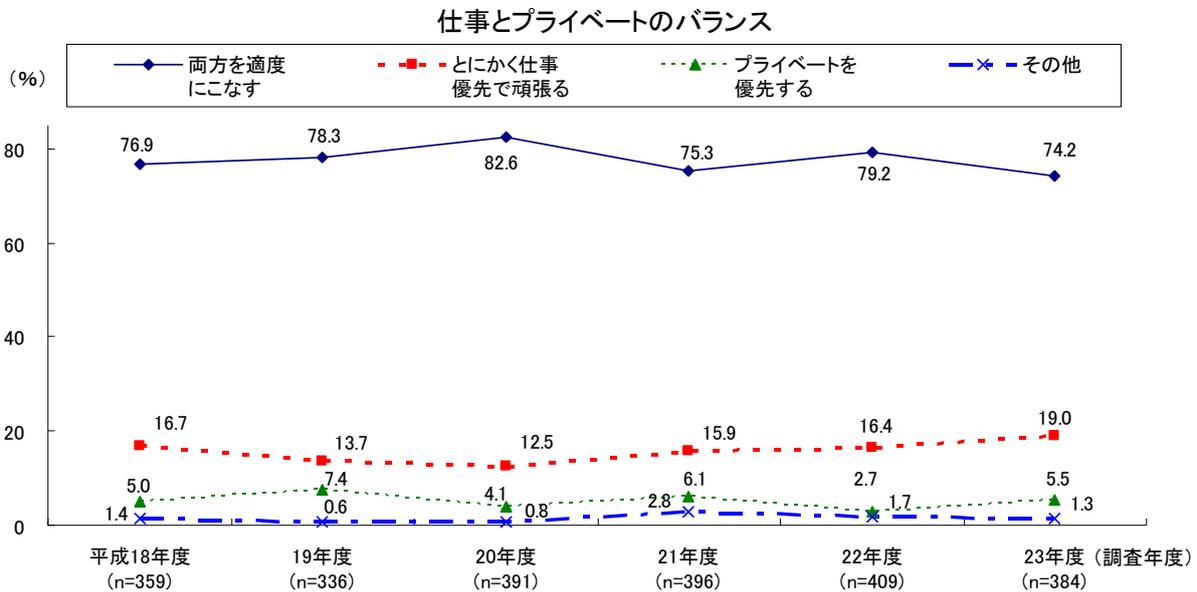
		とにかく仕事優先で頑張る	プライベートを優先する	両方を適度にこなす	その他
男女別全体 (n=380)		19.2	5.5	73.9	1.3
男女別	男性 (n=198)	21.2	6.1	71.7	1.0
	女性 (n=182)	17.0	4.9	76.4	1.6

【「仕事とプライベートのバランス」 学歴別回答割合】

(%)

		とにかく仕事優先で頑張る	プライベートを優先する	両方を適度にこなす	その他
学歴別全体 (n=374)		19.5	5.1	74.1	1.3
学歴別	高校卒 (n=126)	23.0	5.6	69.8	1.6
	短大卒 (n=22)	13.6	4.5	77.3	4.5
	専門学校卒 (n=59)	16.9	3.4	78.0	1.7
	大学卒 (n=149)	18.8	6.0	74.5	0.7
	大学院卒 (n=15)	20.0	0.0	80.0	0.0

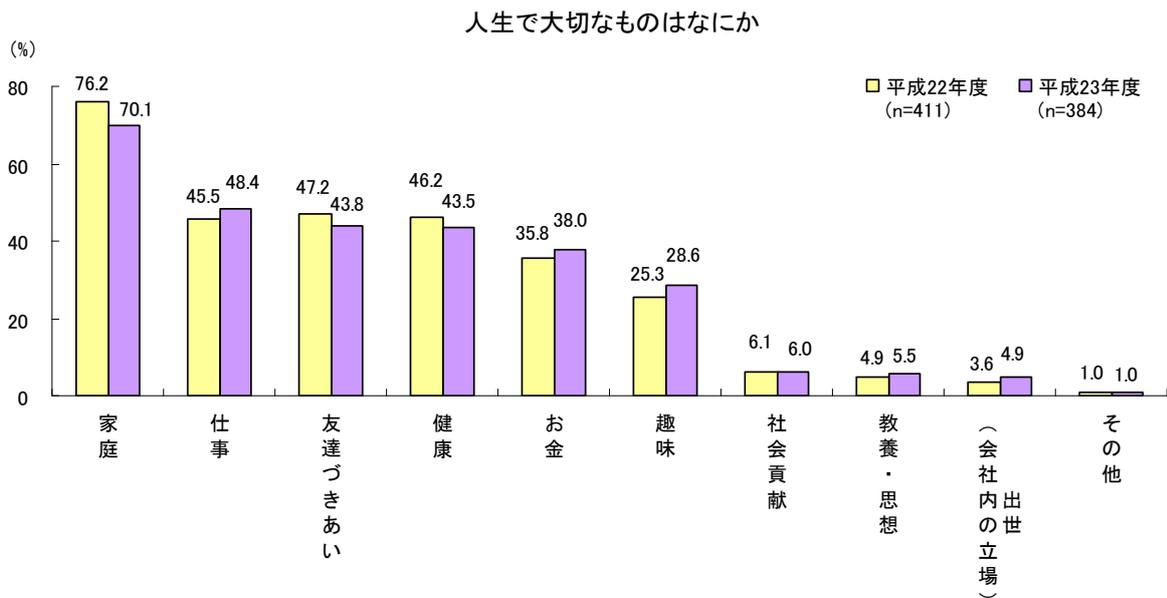
22年度調査と比較すると、「両方を適度にこなす」の回答割合が低下している（前年比△5.0%）。また、「とにかく仕事優先で頑張る」の回答割合は3年連続上昇している。



## 6. 人生で大切だと思うもの（複数回答、3つまで）

“あなたにとって、人生で大切なものはなにか”については、「家族」との回答が70.1%と最も高く、次いで「仕事（48.4%）」、「友達づきあい（43.8%）」が続く。

22年度調査と比較して、「仕事」（前年比+2.9%）の回答割合が上昇し、4位から2位になり、「家族」（前年比△6.1%）、「友達づきあい」（前年比△3.4%）、「健康」（前年比△2.7%）が低下し、「友達づきあい」は2位から3位へ、「健康」は3位から4位になった。



(※) 22年度調査から調査を開始した設問である。

男女別にみると、男性の方が「仕事（54.3%）」の回答割合が高く、女性より10ポイント以上高い。女性の方が「友達づきあい（49.7%）」「健康（49.2%）」の回答割合が高く、男性より10ポイント以上高い。

学歴別では、すべての学歴で「家庭」の回答割合が最も高い。

### 【「人生で大切なもの」 男女別回答割合】

(%)

		家庭	仕事	出世 (会社内の立場)	趣味	健康	お金	社会貢献
男女別全体 (n=380)		69.7	48.9	5.0	28.7	42.9	38.2	6.1
男女別	男性 (n=199)	67.3	54.3	7.5	30.2	37.2	39.7	5.0
	女性 (n=181)	72.4	43.1	2.2	27.1	49.2	36.5	7.2
		友達づきあい	教養・思想	その他				
男女別全体 (n=380)		43.7	5.5	1.1				
男女別	男性 (n=199)	38.2	4.5	1.5				
	女性 (n=181)	49.7	6.6	0.6				

【「人生で大切なもの」 学歴別回答割合】

(%)

		家庭	仕事	出世 (会社内 の立場)	趣味	健康	お金	社会貢献
学歴別全体 (n=374)		69.8	48.9	5.1	29.1	43.0	38.8	6.1
学歴別	高校卒 (n=124)	66.1	46.8	3.2	29.8	47.6	48.4	2.4
	短大卒 (n=22)	63.6	31.8	0.0	45.5	36.4	36.4	9.1
	専門学校卒 (n=61)	65.6	45.9	8.2	26.2	44.3	41.0	3.3
	大学卒 (n=149)	74.5	53.0	6.0	28.2	38.3	32.9	10.1
	大学院卒 (n=15)	73.3	60.0	6.7	26.7	60.0	13.3	6.7
		友達づ きあい	教養・思 想	その他				
学歴別全体 (n=374)		43.0	5.6	0.8				
学歴別	高校卒 (n=124)	40.3	3.2	1.6				
	短大卒 (n=22)	54.5	9.1	0.0				
	専門学校卒 (n=61)	49.2	6.6	1.6				
	大学卒 (n=149)	42.3	4.7	0.0				
	大学院卒 (n=15)	26.7	26.7	0.0				

## ◆ご当地のマスコットキャラクターに対する意識調査

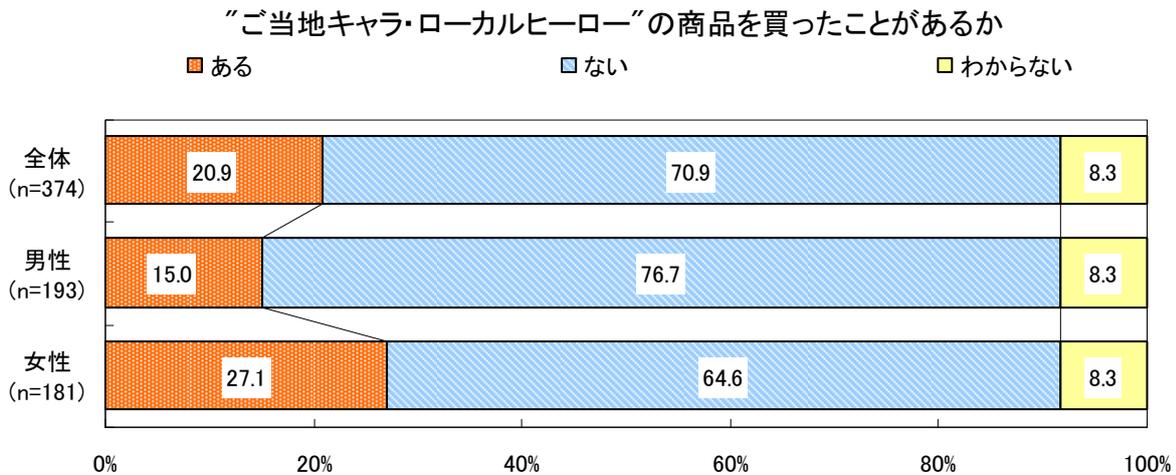
### 7. “ご当地のマスコットキャラクター”に対する意識 ※今回調査で新しく設定した設問

“ひこにゃん”や“せんとくん”のような、地域の産品や偉人・文化などをモチーフとした“ご当地キャラ”や“ローカルヒーロー”に対する意見を尋ねた。

#### 7-1. “ご当地キャラ・ローカルヒーロー”の商品を買ったことがあるか

“ご当地キャラ・ローカルヒーローの商品（グッズ、土産物など）を買ったことがあるか”については、「ない」が全体の約7割を占めた（70.9%）。

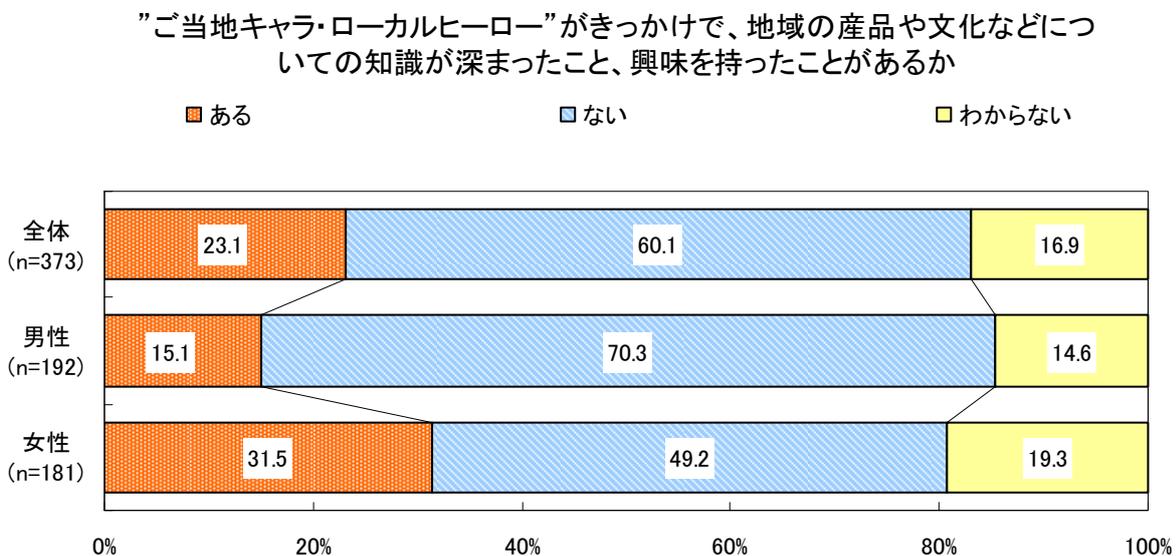
男女別にみると、「ある」の回答割合は、女性の方が高い（27.1%）。



#### 7-2. “ご当地キャラ・ローカルヒーロー”がきっかけで、地域の産品や文化などについての知識が深まったこと、興味を持ったことがあるか

“ご当地キャラ・ローカルヒーローがきっかけで、地域の産品や文化などについての知識が深まったこと、興味をもったことがあるか”については「ない」が全体の約6割を占めた（60.1%）。

男女別にみると、「ある」との回答割合は、女性の方が高く（31.5%）、男性（15.1%）の約2倍の割合である。



### 7-3. 好きな“ご当地キャラ・ローカルヒーロー”について（自由記入回答）

自由記入方式で、①回答者の出身の都道府県の“ご当地キャラ・ローカルヒーロー”と、②そのキャラの好きな理由を尋ねた。

具体的な出身の都道府県の“ご当地キャラ・ローカルヒーロー”の記述があった回答は40サンプル（男性：15サンプル、女性：24サンプル、男女不明：1サンプル）のみであった。

以下に、三重県内の“ご当地のマスコットキャラクター”についての回答を、票数の多い順に掲載した。

順位	名称	票数	男女別の内訳 (男女不明を除く)		理由 (主なもの)
			男性	女性	
1	シロモチくん	11	3	8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・デザインがシンプルだから</li> <li>・ぷっくりとしてかわいいから</li> <li>・やわらかでやさしいイメージがあるので、地元の雰囲気にあっているから</li> <li>・やわらかそうだから</li> <li>・よくイベントなどで見る機会が多かったので</li> <li>・祭りで見かけたときにかわかった</li> </ul>
2	いが☆グリオ	3	1	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幅広い世代に人気だから</li> <li>・のほほんとしていて、顔立ちがかわいらしい。まるまるとした感じに愛着がわく</li> <li>・地元のキャラだから</li> </ul>
3	アンちゃんとノンちゃん	1	1		<ul style="list-style-type: none"> <li>・かわいいから</li> </ul>
3	いっぴよん	1	1		
3	うめぼ～や	1	1		<ul style="list-style-type: none"> <li>・出身地のキャラクターのため</li> </ul>
3	こにゆうどうくん	1	1		
3	ちゃちゃも	1		1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・かわいいから</li> </ul>
3	ツヨインジャー	1		1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大人が本気で悪ふざけしているから</li> </ul>
3	藤堂とらまる	1		1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・かわいいから</li> </ul>
3	ベルディ	1		1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・かわいいから</li> </ul>
3	みえびい	1		1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全国高校総合文化祭のキャラクターだったから</li> </ul>
3	みすぎん	1		1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・かわいいから</li> </ul>

(注) 地域発のキャラクターであると確認でき、かつ、地域の産品や偉人・文化などをモチーフとしたキャラクターの記述があった回答のみを集計対象としている。“ご当地キティちゃん”のように、全国展開しているキャラクターの地域版などは対象としなかった。

本調査に関するお問い合わせは、下記までお気軽にお寄せください。

株式会社 百五経済研究所 担当：川北、森里、松田  
 三重県津市丸之内9-18 津丸の内ビル  
 TEL 059-228-9105 FAX 059-228-9380  
 URL <http://www.hri105.co.jp/>